

第45号

大阪市史跡 龍溪神師墓所 雲竜山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

岡田阪神タイガース・大阪近鉄バッファローズ日本シリーズ(西大阪線対決) 祈願!

龍 灯

働かない若者急増

働かざる者食うべからざる(労働者)

就職意欲がなく働かない「ニート(NET)無業者」と呼ばれる若者が急増しています。平成十五年は六十三万人と十年前の約一・六倍に増加している。そうで、十五歳と三十四歳の人口の約2%にのぼるといふこと

です。ニートとは「Not in employment or Training」の略語で、英国の労働政策の中から生まれた言葉だそうです。働いたり、働くための訓練を受ける意思を持たない若者のことをさし、定職につかず短期のアルバイトなどをして暮らすフリーターの若者より労働意欲に欠け、親にパラサイト(寄生)して生活しているケースが多く、現金が必要になると一、二日のごく短期のアルバイトをしてのんびりしている若者、俗にプータローともいいます。欧米人は、労働を神から科された罰とみています。罰で働かされてサボろうとする。いわば「労働

働かざる者食うべからざる(労働者)

懲罰説」の労働観をとっています。日本人にとっては、働くことは神に事(つか)えることであり、「労働神事説」とも言うべき神道の思想の影響を強く受けています。だから「働けるうちは働きたい」と考える者が多く、悠々自適の生活ができるのに、生活費は困っていないのに働きたいと願う人がいるのです。仏教では、お釈迦さまは、出家者は托鉢によって生きるべきだと、弟子たちが生産に従事することを禁じていました。しかし、のちに大乘仏教になると、仏教の担い手が在家信者になり勤勉が美德とされ、仏教も労働を重視し、江戸時代初期の禅僧鈴木正三が「農業即仏行なり」と主張しています。農業ばかりでなく、一何の事業も皆仏行なり。人々の所作の上にをひて、成仏したまふべし。仏行のほかなる作業有べからず」とも言っています。禅語に「一日作(な)さざれば、一日食(くら)わず」(百



文懐海禅師)という言葉もあります。「働かざる者食うべからず」という意味ではありません。働くのは自分の生活のためではなく、仏の願いのため、人々の幸せのため、傍を楽にするために見返りを求めずにつくすことを言っています。それができないから食べられないということです。労働に対するこうした考えかたを、現実にあわない。そんなことでは人に利用され、ひどい目にあうと冷笑する人が多いかもしれないが、働くということはどう考えるかで、私たちは豊かにも貧しくもなれるのです。日本人がもっていた労働観が音をたてて変わろうとする現代にあって、ニートの増加が警鐘を鳴らしているのではないかと危惧せざるにはおられません。

森崎蘭外先生逝く

鳴鳴吟社と当院漢詩勉強会

拙院の「漢詩勉強会」に講師をお頼みしております森崎蘭外先生が、平成十六年五月五日にご逝去されました。享年七十八。本名耕治、もと印刷業に就いていた関係で、校正は欄外にするとところから蘭外と号した。

大坂には、江戸宝暦年間に「混沌社（片山北海盟主）」という漢詩の社中があり、文化・文政に自然消滅するまでの間、最盛期には益を受けた者三千人と言われる漢詩人がいたと言います。そうした先人たちの輝ける伝統を回復し



森崎蘭外さん (鳴鳴吟社 主宰)

短歌・俳句・川柳に負けない漢詩人育成を生涯の目標に鳴吟社主幹として、関西吟詩文化協会の作詩指導をはじめ中国重慶市文史研究館との文化交流事業をはじめ多方面に活躍されました。

詩吟を楽しむ人は多いですが、漢詩を作るとなると難しいものです。禅門の儀式には法語は欠かせないもので、なかでも偈頌（げじゅ）といわれる七言絶句は法語の基本となるもので、漢詩は私ども禅宗僧侶の必須教養なのです。たまたま産経新聞の紙面で

鳴鳴吟社第十回漢詩展（平成五年十一月十二日〜十七日）のことを知り、詩吟もされていた檀家の村上節子さんに話したところ、蘭外先生に連絡をとって頂き、会場の「エル・おおさか（府立労働センター）」に出向き、請拝の礼をとりました。翌正月二十五日に拙院「漢詩勉強会」が始まりました。勉強会は、毎月

第四火曜日（三・八・十二月は休会）の午後七時より九時までで、平成十五年五月二十七日を最後に足掛け十年間の長きにわたり薫陶を受けました。

蘭外先生は天王寺区にある臨濟宗妙心寺派の天瑞寺の禅会の居士をされていた関係で禅家にも詳しく、岐阜の虎溪山僧堂に老師の拝請を受け漢詩の講義に出向かれたこともありました。

我々にとって幸せであったことは、先生が中国上海で購入された「禅詩辞典」から、禅趣・禅理・禅境の三種類に分類し、毎回中国禅僧の偈頌鑑賞指導をされたことでした。本場中国の禅僧たちが禅の高邁な境地を、その七言絶句より分かりやすく解説され、いながらして参禅しているかの一時を過ごせたことは何よりもかけがえのないことでした。

詩吟の指導者は、星あまたの如くおられますが、作詩指導され、しかも多岐にわたる教養をもたれた指導者は全国にそう沢山おられません。それを思うと誠に痛惜の思いです。拙院の「甕龍の桶」の頭彰碑「題九島院大楠樹」の漢詩

悠悠屹立占天空
無言無語古今佛
一切東西南北風
や新造した梵鐘（弘龍の鐘）
の鐘銘

九島一撞中外鳴
人來人去自平生
永年朝暮皆知覺
三寶隨緣是此聲
を撰して頂きました。
平成七年十二月十日には、戯れということでしたが次の七絶を頂きました。

城西永保淨無塵
松樹竹林粧碧旻
三百年來人若問
清風明月作佳寶

因みに、九島院は既報のよう混沌社とは縁があり、混沌社設立メンバーの医師福原丹安、承明の葬儀は当院で執行され墓もあります。十五代住持恵眼和尚は篠崎小竹の門人で、養父の篠崎三島は、同じく混沌社の設立者の一人でした。時代が下り、混沌社復興を旨指された蘭外先生の警戒に触れることができたのはご縁の賜物と感謝しています。蘭外先生のご冥福をお祈りいたします。

岡田阪神タイガース・大阪近鉄バファローズ日本シリーズ（西大阪線対決）祈願！

金成不動尊建立

彼岸会に入魂法要厳修

この度、不動明王の石像を甕龍の楠の下壇上に請来し、本年の山門会（春彼岸法要）に先立って、入魂開眼法要を厳修しました。場所と時間の関係で参詣者一同は本堂の大入魂に立ち会って頂きました。真言宗のお仏壇の本尊には不動明王・大日如来・弘法大師をお祀りしていますが、不動明王は「お不動さん」と呼ばれ、宗旨に関係なく広く信仰されています。

お不動さんは、大日如来の忠実な使者で奴僕のような存在です。大日如来があまりにも完全無欠で近寄りたがたいため、もっと親しみやすく頼りがいのある仏さまとして姿を変えて現れました。

「不動」とは、火の中にあってもすべての罪悪を破壊することに努力し、動揺しないことからつきました。焰光を背負い、金剛石のうえに座り、右手に剣、左手には羅策（けんじやく）縄で引く回して、かめしいお姿（忿怒の相）で

すが、心には限りなく悲しみの徳とおおらかな智慧を蔵され、悪を払い善を救ってくださる慈悲のお姿なのです。

当院ご開山龍溪禅師のご念持仏の不動尊は、創建以来本院にありましたが、某氏がこれに信心を深めたところ、家業殷賑を極めたところで、「金成不動尊」と名付けられたといえます。明治時代に大本山萬福寺塔頭萬松院に移され、お堂が建てられ「金成不動尊」と本山近在の信仰を集めています。

お不動さんは、家内安全、交通安全、商売繁盛のほか、平家物語の文覚上人（頼朝に挙兵を勧め、高雄の神護寺を復興）の荒行をお護りしたとなどから、修行僧の護り本尊とされており、江戸歌舞伎の初代市川團十郎が不動尊を演じ大当たりをしたことから屋号を「成田屋」にしたのは有名な話です。

愚息が修行に出ることとなり、挫折しないで無事満了するよう、お不動尊に祈念を誓う今日この頃です。

祝・阪神西大阪線難波延伸工事起工式（平成十五年十月七日）！



○「相合傘 第三集」出版

上方文化人川柳の会の書籍「相合傘 第三集」が出版されます。

小生も第二集から登場しましたが、第三集には、これまで

での例会での入選作品・好きな自作の句が5句載ります。ちなみに、雅号は和尚をもじって「汚生（おしょう）」です。JOC出版から七月初旬に書店にならびます。定価千五百円です。

第十一回修養会のご案内

本年は大仏巡拝の二回目です。当初予定の彦根大仏は諸般の事情で次回まわしとなりました。

今回は、毎日放送の「ちちんぷいぷい」という番組で紹介された新大仏寺へ参ります。その名が示すように、奈良・東大寺大仏の再建に尽力した鎌倉時代の名僧、重源上人が開いた真言宗の寺院です。一説には東大寺大仏師殿復興時のモデルといわれた本尊の毘盧舍那仏は、仏師快慶作で、丈六の大仏です。伊賀上野の旅館「三田清」で逸品料理を頂き、松尾芭蕉の足跡をたどりつつ、帰阪します。岐路、大阪美原町にある狭山藩の殿様寺の黄檗宗法雲寺を訪ね、河内三千仏と信仰を集める観音さんをお参りします。是非、お誘いの上ご参加下さい。

募集要項

- 日 時 10月31日（日） 9時集合出発
 - 集合場所 九島院より貸し切りバスに乘車
 - 旅程 九島院—新大仏寺（膳）—伊賀上野（膳・観）—法雲寺（膳）—九島院（5時解散予定）
 - 会費 1万円（食事・拝観料込み・当日徴収）
 - 募集人員 40名（満員になり次第締め切り）
- ※先着順です。申し込みは、当院（☎06-6583-2725）
 出発日の半月前に確認書をご郵送します。

奉 納 抄

結城紬三反・和装品一式寄贈
(平成十六年二月二十三日)

此花区の永井幸江様より、結城紬三反・和装品を頂きました。亡きご主人さまにと購入されていたそうで、住職に着てほしいとのことでした。早速、出入りの呉服屋さん仕立ててもらい趣味の落語出演のさいに、着させていただきます。有り難うございました。

編 集 後 記

▼イラクでの人質開放に際して「自己責任」という言葉が喧伝されました。戦後民主主義では「権利には義務がある」と教えられてきました。「義務には当然、責任がともない罰がある」と追加しなければなりません。▼「教育、納税、労働」は国民の三大義務ですが、引きこもり・年金未納・ニード(プー太郎)の増加など、義務には責任があり、罰がともなうことを

教える必要があると思います。▼世襲の家に生まれた者は大変なことです。市川団十郎は子の海老蔵に荒事(あらごと)など伝統の芸を伝える義務があり責任があります。▼「お仏飯」で育ててもらった以上、仏さまを護り広める責任があり、修行の義務があるのです。愚息の入堂を誰よりも喜んでるのは、先代弘忠和尚でしょう。自慢の孫だったからです。

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折り、郵便振込でも結構です。



入門志願者は、衣装のまま坐りこんで低頭し、懇願しつづける。

● 出 家

この七月十九日に愚息が修行に出ることとなりました。大学を卒業して四年、金融関係の会社勤務をしていましたが、この度退職し大本山黄檗山萬福寺の専門道場に修行僧の第一歩を踏み出す事となりました。

天台宗の「千日回峰」日蓮宗の「寒修行」など、宗旨による修行方法はいろいろあります。いずれの修行も易しいものはなく、禅の修行も厳格な規矩のもと肅然と行われています。

空を行く雲、地を流れる水の如き精神を養う修行から禅の修行僧のことを「雲水(うんすい)」と呼びます。

一杯の器にはこれ以上水がはいらないように、修行するからには、自らをゼロにしなければなりません。「なぜ自分はこんなことをしなければいけないのか」「何のために・・・」沸き上がってくる疑問執着と闘い、新到(しんとう)は、旦過寮の玄関で二日間の「庭詰(にわづめ)」を体験します。

玄関先に斜めに腰をかけ、袈裟行李の上に頭をのせて低頭懇願する。用便に立つ以外、そこを動かさず座り込んで低頭を続ける。受付の僧に引きずり出されたりもするが、それでも舞い戻って続ける。夕方には投宿を許されるが翌朝には再び追出されくじけることなく二日間このまま座り込みをする。

やっと許しを得ても正式に掛塔が許されるには、更に三日間の「旦過詰(たんがづめ)」。食事と用便と勤行以外は立つことも許されず、ひたすら壁に向かって坐禅に明け暮れる。この辛く厳しい関門をへて娑婆の疑念が洗い流され

やっとう門が許されるのです。絶えず情報にさらされ、じっとしておれない現代っ子にとって、修行を貫徹してくれるのか。祈りつつ、愚息を見送るつもりです。きっと弘忠和尚が護ってくれるでしょう

祝・阪神西大阪線難波延伸工事起工式(平成十五年十月七日)!

水 灯 会 ・ お 施 餓 鬼 法 要

8 月 1 9 日 (木)
午後 1 時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません
ご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職

ご
案
内